

# 「日立の英への原発輸出に反対し、政府の公的資金投入に反対する3/20院内集会」報告

コアネット：山口

2018年3月20日、都内で標記集会が開催されました。主催は「核武装国インドへの原発輸出に反対する市民ネットワーク」。コアネットも参加する市民ネットワークです。

冒頭に福永正明氏（岐阜女子大南アジア研究センター、コアネット顧問）から、日立の英ウィルヴァ原発輸出の何が問題なのかの報告を受けました。

続いて、2015年2月に、英国現地に訪問された菅元総理からスピーチをいただきました。

菅元総理は、「原子力で破たんした東芝の場合、子会社にしたウエスチングハウスは、原発メーカーだった。英ホライゾン、メーカーではなく、電力会社である。なぜか。英国は、電力比率で、原発を一定の割合にすると決定している。電力会社なら、どこに発注するかは有利で、これが受注を狙う日立の作戦である。原発は、建設に10年かかる。そうすると、稼働するときには、発電コストが再生エネルギーより高くなっているかもしれない。英国では、『もしそうなくても補填しますよ』という法律まで作って保護している（経産省の談）。一方、日本側は、政府系金融機関のJBICの融資、加えて、NEXIによる貿易保険により、『融資に失敗しても保証しますよ』ということにしようとしている。まるで政府丸抱えの様相だ。私は、311の福島原発事故までは、原発を推進していた立場であったが、事故を機会にこれをやめた。原発メーカーには、『日本で原発はできないから、確実に作れる英国ですすめたい』という理屈がある。しかし、こんなリスクのあることを日立はほんとうにやるのかと思っている。



現地の人から、「菅さんはなぜ考えが変わったか」という質問を受けることがある。311事故の直後、東日本人たちの全部が避難になるかもという事態になった。こんな大きなリスクのあるものはやっちゃいけないと思ったと説明している。みんなで原発輸出を止めよう。」と訴えられた。

また、多くの国会議員の皆さんも駆けつけていただき、原発輸出に反対する市民と議員の連携を作ろうと、アピールをいただきました。以下、ご氏名のみご紹介します。

共産党 笠井亮衆議院議員  
共産党 武田良介参議院議員  
社民党 福島みずほ参議院議員  
立憲民主党 横光克彦衆議院議員  
(あいうえお順)

翌日の3月21日は、代々木公園で「さよなら原発全国集会」が開催されました。雨と雪で大変でしたが、「市民ネットワーク」として、ブースでの宣伝、呼びかけ活動を行いました。ちょうど、東京新聞に「院内集会」の記事が出たところでもあったので、そのコピーと4月13日の集会のチラシを配布しました。「日立の原発輸出反対」の新しいバナーに関心を示される方も多く、「政府保証をつけるなんてとんでもない」というのが多くの市民の声だと実感しました。